

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年5月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2872700311		
法人名	社会福祉法人 楽久園会		
事業所名	グループホーム こぶしの里		
所在地	(〒 677-0113) 兵庫県多可郡多可町八千代区俵田111-60		
	電話	0795-37-0174	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年5月25日

【情報提供票より】 [平成 21年 2月21日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月1日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計 9人)		
職員数	9人	(常勤4人) (非常勤5人)	/ 常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上 2階建て建物の1階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,250円	その他の経費(月額)	12,160円	
敷金の有・無	有り (円) ・ <u>無し</u>			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (円) <u>無し</u>	(保証金有りの場合)保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日あたり		1,380円	

(4) 利用者の概要 (平成21年2月21日 現在)

利用者人数	計9名 … (男性0名) (女性9名)		
要介護1	5名	要介護2	4名
要介護3	0名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均85.7歳 … (最低69歳) (最高98歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西脇病院	加西病院	中町赤十字病院	加東市民病院	棚倉歯科医院
---------	------	------	---------	--------	--------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR「西脇」駅の北西、車で15分程の静かなところ。運営主体の「楽久園会」は、同じ敷地内に、介護老人福祉施設、軽費老人ホーム、小規模多機能ホームのほか、居宅系サービス事業所(通所介護、訪問介護、居宅支援事業所)を併設し、地域の高齢者介護に幅広く貢献している。ホームを囲む自然(緑)や、広い居住空間(共有部分等)は心が落ち着き、認知症ケアにおいて最適な環境である。開所以来、職員の入れ替わりもほとんどなく、馴染みの関係が築かれている。敷地内にある地域交流ホールでは、いろいろな行事が催され、利用者は喫茶でお茶を楽しんだり、クラブ活動に参加したりするなど、地域の方々との交流の場としてたいへん有効に活用されている。◎参考として、前回・前々回の評価時の資料写真も添付

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	①届出事項や地域交流などについて、その折々に市町へ相談し連携を図っている。②家族報告については、今年から2か月に1度、個別のお便りを送付している。③運営推進会議の周知に関しては、家族への議事録送付を検討中。④終末期ケアの指針については、様式を準備した。⑤入浴について、より柔軟に対応できるような仕組みを検討中。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	全職員による会議で評価項目を話し合い、これを管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	近況報告のほか、ホームとして地域高齢者に役立てるための前向きな話し合いが行なわれており、会議は「地域と共生する」事業所作りのために欠かせないものになっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	意見箱設置や苦情窓口の周知のほか、運営推進会議時や家族の面会の際には積極的に意見・苦情を聴きとるようにしている。「楽久園会」としても苦情窓口を設置しており、苦情解決委員会が対応し、かつ、2~3か月毎に内容を討議し、その結果を第三者委員会に報告する仕組みになっている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	広報誌「楽久園会だより」は、町内全戸に配布され、地元住民の情報源として活用されている。敷地内に併設の「地域交流ホール」「喫茶室」「理髪店」は、地域住民も気軽に利用でき、地元との交流の場になっている。ホームの利用者は楽久園会と地元住民が主催する行事にも参加している。また、小・中学生によるボランティアも受け入れており、楽しみごとの1つとして定着している。

◎地域とのつきあい

地域に配布している広報誌『楽久園会だより』



◎地域とのつきあい

ボランティアの子どもたちが描いてくれた似顔絵



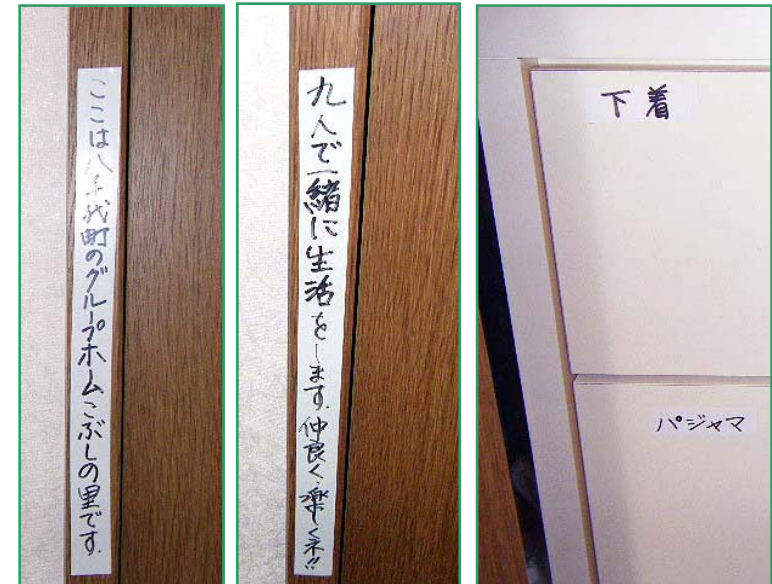
◎居心地のよい共用空間づくり

生活感、季節感のある居間



◎その人らしい生活環境作り

共用スペースや居室での不安の解消



◇所定の書面に添える資料として、事業所の了解も得て掲載するものです。◇評価結果の活用(ケアサービスの向上、地域の方々の高齢者介護への理解…など)に、ご参照・お役立て下さい。
◇ プライバシーの配慮、個人情報保護の観点から、誠に失礼ながら、ケアサービス利用者のお顔などについて適度の処理を施しています。(処理不要のお申出があるときはこの限りではありません。)
評価機関＝特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所

▼喫茶室(地域にも開放されている)



▼場所間違いの防止策と照明の工夫



▲広いベランダ



▲共用スペースの雰囲気づくり

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を「一緒に楽しくゆっくり」とし、法人(楽久園会)の基本方針には、地域社会の一員としての暮らしを支え続けるという思いを込めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議での周知のほか、管理者は、毎朝利用者の状況を確認し、運営理念を職員に徹底すると共に、運営理念に沿って行動するよう指示している(個々のケアにおいても、これが実践されている)。理念は、来訪者の目に留まるよう、ホーム入り口に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広報誌「楽久園会だより」を旧八千代町全戸に配布し、認知症ケアの理解・浸透に努めている。ホーム行事・地域行事に相互に参加し合い、併設の交流ホールも活用しながら地元住民と交流を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組んでいる。職員全員で自己評価を実施することで、更なる質の向上に繋がっている。また、評価結果は客観性を持った視点として捉え、運営者や職員が気付かなかった点として改善に活かしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現況報告のほか、自己評価及び第三者評価についての報告をし、地域との意見交換や出席者からの要望を聴取するなどし、サービス向上に活かしている。	○	会議の議事内容を家族に報告し、会議の趣旨の理解と、さらなる協力を求めて頂きたい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	加西市が主催する事業者連絡会に参加するほか、折に触れ相談もし、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会も多く、利用者の日々の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等については面会の際にしっかりと伝えていく。定期的には2カ月に1回、個別のお便りを送付しており、日々の利用者の様子が分かりやすいように工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見・苦情については、面会の際に聴取できるよう、ホームとして取り組んでいる。家族が職員へ直接言いにくい事柄については、玄関に意見箱を設置し、投函できるようにしている。運営推進会議の場で、家族の代表者から意見を聴き、これを職員全員で共有し運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年職員、異動は無い。職員は、運営者や併設のケアハウスの主任相談員に、いつでも相談が出来る仕組みが出来ている。また、職員配置については、認知症ケアに適した職員を置くよう努めている。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の現場での実践指導のほか、段階に応じた外部研修の機会を確保すると共に、月に1回は全職員を内部研修に参加させ、人材育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催する事業者連絡会に参加している。他ホームの見学にも行き、交流を持っている。	○	「今後、年間計画を立て、同業者との交流機会を作っていく予定」とのこと、これを進めてほしい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に自宅を訪問し、本人から困っていること・不安なことを傾聴する機会を持っている。ホームの通所介護の利用や、数時間滞在するなど、徐々に馴染めるよう、家族と相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの理念(一緒に楽しくゆっくりと…)に沿って、職員も利用者と共に楽しみながら過ごすことで、時には利用者にも励ましてもらったりと、お互いに支えあう関係作りに努めている。利用者同士の支え合いの支援にも注力している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共に過ごしながら、利用者一人ひとりの思いや希望を汲み取れるよう努めている。困難な場合も、家族を交え、工夫しながら、本人本位に検討している。	○	会話ノートの活用を検討するなどして、利用者の意向を聴き取り、ケアの質向上に活かして頂きたい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、職員間で意見を出し合い、本人が望む暮らしを支えるための計画作成に努力している。計画には、家族にも協力してもらおう部分も盛り込んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には6ヵ月毎に、状態変化が生じた場合は随時に、利用者、家族と話し合い、計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護や短期利用型共同生活介護も運営しているほか、併設施設もあり、その時々に応じた支援をしている。医療連携体制も整備されている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関はあるが、これまでのかかりつけ医との関係も大切にしており、併設施設の看護師の支援を受けながら、利用者や家族が納得のいく医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のありかたについては、事前に利用者や家族等と話し合いを持ち、ホームとして「出来ること・出来ないこと」をしっかりと伝えている。重度化した場合は、家族等とかかりつけ医と共に頻繁に話し合いを持ち、できる限り本人の希望が叶うように努力している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「利用者の意思及び人格の尊重」を支援の基本姿勢とし、誇りやプライバシーを損ねるような態度や声掛けをしないようにしている。個人情報の守秘義務についても徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本の生活や都合を無理強いするのではなく、個人の希望や一人ひとりのペースを大切にしながら支援している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	大きなテーブルを皆で囲み、利用者と職員が会話を交わし、楽しみながら食事をしている。利用者の能力に合わせて、配膳や片づけを共に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯は決まっている(週3回の入浴)。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、日々の生活の中で個々に合わせた役割を持ち、併設施設の各種クラブ活動や外出など、一人ひとりの希望に沿って楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	建物の広さを活かし、共有部分を生活機能訓練に活用している。日々の歩行リハビリにも回廊式のベランダを活用している。眺望の良い中庭も、気軽な戸外として活用している。買い物やドライブなど、利用者の希望に沿って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの周囲は急坂であるため、職員の目が行き届かない場合は施錠しているが、職員は鍵を掛けることの弊害を理解しており、施錠する時間を短縮する努力を行なっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と一緒に避難訓練は年に数回行っており、うち1回は、地元の消防団との合同による。現在スプリンクラーの取り付け工事を行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量については、おおまかに把握している。栄養士がバランスの取れた献立を立てており、状態に応じた食事形態や栄養補助食品を摂ってもらうなど、一人ひとりに合わせ提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルには、季節ごとの花を飾り、リビングには利用者の作品や季節を感じる装飾品がある。温湿度計も各所に設置され、ソファーや和室もあり、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を持ち込むスペースが十分に確保されており、家族の協力を得ながら、それぞれの住まいとして工夫している。		

※  は、重点項目。